

B—12 皮脂の肌着への吸収およびその除去に関する研究
第9報 肌着の皮脂汚れの量的変化の一原因

愛知学芸大 平尾 あや

1. 先に、肌着の皮脂汚れを単分子膜レンズ法で測定して、肌着地の種類別差異・季節的差異・個人的差異・部位的差異・日々の変化など報告した。また肌着の皮脂汚れの量的変化の原因追求の目的で、食餌の影響・婦人生理時の状態・試布と肌との密着度の関係なども報告したが、今回はこの量的変化の主原因の一つと思われる温度影響による状態調査を目的とした。

2. 年齢 21 歳の健康な成人女子 6 名が被験者兼実験者となって、3 名宛繰返し 3 回の実験を、気温変化の比較的少ない時期（3～5 月）から気温の高い時期（6～月）にかけて行なった。試布は、木綿メリヤスの（7×7）cm² 紡績油抽出布で、これを一定の木綿メリヤスの肌着の背の左右に、上下 2 枚宛並べてとじつけ、この肌着を着用後、一定時間（3 時間）左右半側宛保温または冷却して、両側の皮脂汚れ量を測定した。保温・冷却には、電気保温器・赤外線電球・湯たんぽ・こんにやく（温冷両用）・氷嚢・扇風機などを用いた。

3. 1) 保温側の皮脂汚れ量は増加する。2) 冷却側の皮脂汚れ量は減少する。3) 温度に対する量的変化の割合にも特徴のある被験者のあることが認められた。以上、前報（第 7 報）より考えれば、皮面への排出皮脂量は、局部的温度にも影響され、温かいとき（ところ）は増し、冷えるとき（ところ）は減少することが認められた。